

共卅本

成形圖說

農事部

三



特別
= 1
144
3



門=加 /
號 184
卷 3

成形圖說卷之三

目錄

時節 トキノフ

附四季 ヨソノトキ

占歲 ヨメウラ

風蝗 カセオホムシ



成形圖說卷之三

成形圖說卷之三

農事部 時節類

登伎袁利

書紀○即時節也真字伊勢談

時節

左傳凡春秋分冬夏至立春立夏為啟立秋立冬為

卦象傳

君子以治歷明時程子云推日月星辰之遷易明

四時之序

也夫變易之道事之至大理之至明跡之至著莫

如四時

按日月星辰之益稱時節之至明跡之至著莫

小一其明

澄矣一堯典曰昊天歷象之節之至明跡之至著莫

と一其重

仍似一夫天日の外いふる歴象あり而後人地

月星

の光曜と受借て後象と見ゆるなり

上

在て其日月の交會と側子中極の星位と觀て以て

天行

と知ふは日月の大戴禮曾子云聖人慎守日月之數以

察星辰

之行以序四時之順逆謂之歷名義においへば

政其說

新子似故戴氏震書補傳以歲月五辰為舜典之七

子云行

夏之時と夏の時ハ今の節令とおれ殷周ハ冬

成形圖說卷之三

と以歳首とせしめ
る時、令正しく候
蕃名テイト

孝徳天皇詔曰天地陰陽不使四時相亂惟此生乎萬物也
凡當農作之時宜早發營田令畿内及四方國催課農桑夫
時節ハ專耕作乃上ニ係りてつふ亦寧ふ凡俗間ハ時
種時為付時刈上時瓦納時ふどつふと稼穡の時節とい
つり又節折節折柄ふどつふと即時節也夫本集ニ春乃く
ふり地ノ杜ノ
下藪とりまきとるどや藪深るんどりまきれりどは時節
とまきとるまけいていつる〇物乃をどよ地時節とまき
とつふハ湖の指引より出て月乃おまき入る月編乃刈
まきふどまきやといつる〇又度とまき言ま典利とつる
二度三度のまきとしの時字とつる書堯典敬授人時註謂
よりとつるま典とまきとつるあり

耕獲之候凡民事早晚之所關也管子又凡有地牧民者務
在四時黃帝云四時之不正正五穀而已耳國語云三時務
農而一時講武三時ハ春夏秋ふて其一時は即冬より民
の農隙ハハ武術と講せしむ也凡年中四時よりつて
毎月二節都て廿四節あり然れ節序ハ遅速あり此ハ
當年ノ曆あり真曆考曰上ノ代の四時ハ曆乃節氣乃
刻とつる其の始ハ西漢立春の古語ありきて立春
の次ハ二月の節乃次まきて其の始より夫より三月
の節の頃まで其の終のまき四月乃節の始まで其の終の
まきとつる夏秋冬をなすつて知るはつてかく三節

子分て始ありバ末とはいひしりども某月といひて一
 年十二月と定むるおとハありき
扶桑畧記永承三年五月二日自太
 宰府進新羅曆與本朝元相違但十二月大小不同同年
十一月十六日自太宰府進大宋曆與本朝曆符合同五
 年十一月朔且賀條曰我朝異國其曆相違古今例多然而公家不必用異國之說今按子皇國
 の時令直は年月の名お係て其授命するもの表叙農事
 と終始と係る本も是公の謂天地と書籍と日月
 と澄明とと云は是といふは古事記傳曰年ハ田寄也
夕ヨと切てトとなるさてヨセ 先登志ハ穀乃事なり
トヨザシと云る例古より 先登志ハ穀乃事なり
 其は神の御靈とて田は成て天皇に寄奉るゆゑとい
一里 田より寄奉るといふは後みて穀と登志といふ也
古俗贈物の時向より又其意ハ物と入て是れと年

實と号して大神宮年中行事の條は於後より石と入て年
 實と号して後より石と入て年實ハ年穀の意といひて其の
 志の凶事の神の厚き遠習なりといふは塩とて或は返と
工商各執贄互相賀名其 祈年祭祀詞ハ皇神等能寄志奉
贄謂年玉亦此意あり 祈年祭祀詞ハ皇神等能寄志奉
 年奥津御年辛ハ東穗能嚴穂爾皇神等能寄志奉者云々
 又大嘗會乃時齋院と據て御年神大御食神と祭るは是
 是ふより奥津御年ハ福といふ福ハ穀の中みと晚く
 後ゆゑ又奥といふを同福の中みと晚くおとせ
 とつふて知るはて穀と一原取收と一年といふは云
ニハス 又年終乃月新福とて餅つくりて名て年餅と云始て
 其餅と食つと年取といふは歳ハ福と収て其歳と迎ふ

るありきも夏は御年とおれしく穀とて年取と称
ふあり又稲の始て生るはと若年とらふは年取と始と
やんじふと穀は液り
春ハ草木の芽發の意を秋は木芽發雨とらふ是也○月
令孟春是月也天氣下降地氣上騰天地和同草木萌動王
命布農事

蕃名シニテ

夏ハ茂立なりリと省きタ是稲の成立より是を一説は
夏ハ阿つきの畧なり後柏原天皇の大沛歌夏冬とた
つぬ時と天沛日乃はむさゆと云はたあしと云ふ

蕃名ソームル

秋ハ阿加利ふてカリはキ是は稲の赤らむと云ふ
アカルと云四季の夏秋と本此意ふて稲と云名あり
一説は秋ハ飽是の意俗に秋は熟と云ふ言わると○莊
子正秋而萬實告成○月令季秋之月命冢宰農事備收

蕃名ヘルフスト

冬ハ殖ふり年穀成て恩頼のふと何あやと云ふ若孫好
忠款といふはふとかいなり身はへ急ぐ其是は海の冬
とう儀もいひるやと云ふ生乃何きとい
ふも恩頼の言ふといつり一説は冬ハひゆるの轉也

分栽するなり小倉山さ月のあのとすゆ 異名佐久毛月 佐
 久毛子菴元子と云田子仲法と名知家 田月
 即農事と云ふり池邊にふるまふと云はる 田の阿
 やめりり者かざりけりさくも月とて小野 田月
 五月雨に空もさくもさくも 儀男 漆月 如何して茶此
 月因くさ月といはる 月不見月 小笠と云はる
 新ん志津海の家乃 月不見月 小笠と云はる
 五月雨に空もさくもさくも 儀男 漆月 如何して茶此
 けむ 橘月 誰代より 梅月の名と云めて 亦吹喜月と
 云云 〇世の誘よとの急しき 五月農夫といひ又五月
 女ハ苗代名と鏡よと云ハ子田ありたりと云はる 橘と云はる
 れどと五月の農功と急ぎぬらゆ急田の面の名よと云
 ぐ黒髪より阿事川ありと云と云はる 橘と云はる
 ぐと云はる 橘と云はる 加茂神田極の河にと云と云はる

は泥にこそよおれと云と云はる 橘と云はる
 なるかきさいふしかくはるも引くといはる 橘と云はる
 向いてと云の邪歌ハみぐきほむ 紅粉香油とて 髪面飽
 まてぬり餅を冬燻と夏いやくたるとお好し後ハ舅
 夫と云いもと云はる 橘と云はる 橘と云はる
 うり後の世乃くはるこ交ふんと云はる 橘と云はる
 あさぬぞ恥りしきむの波さくがの雲の濁るさるる 橘
 かいこく福是がらな何と云はる 橘と云はる
 なくいでやそ罷脱んと云はる 橘と云はる
 で漏いわりく却てと云はる 橘と云はる

て地獄より為ぬべき女ハ只美より縫織の乃を勤め
夫よまめやりに己の口利を所と辛苦きくくし功徳
海と海とくん便の舟とハおのりふべし

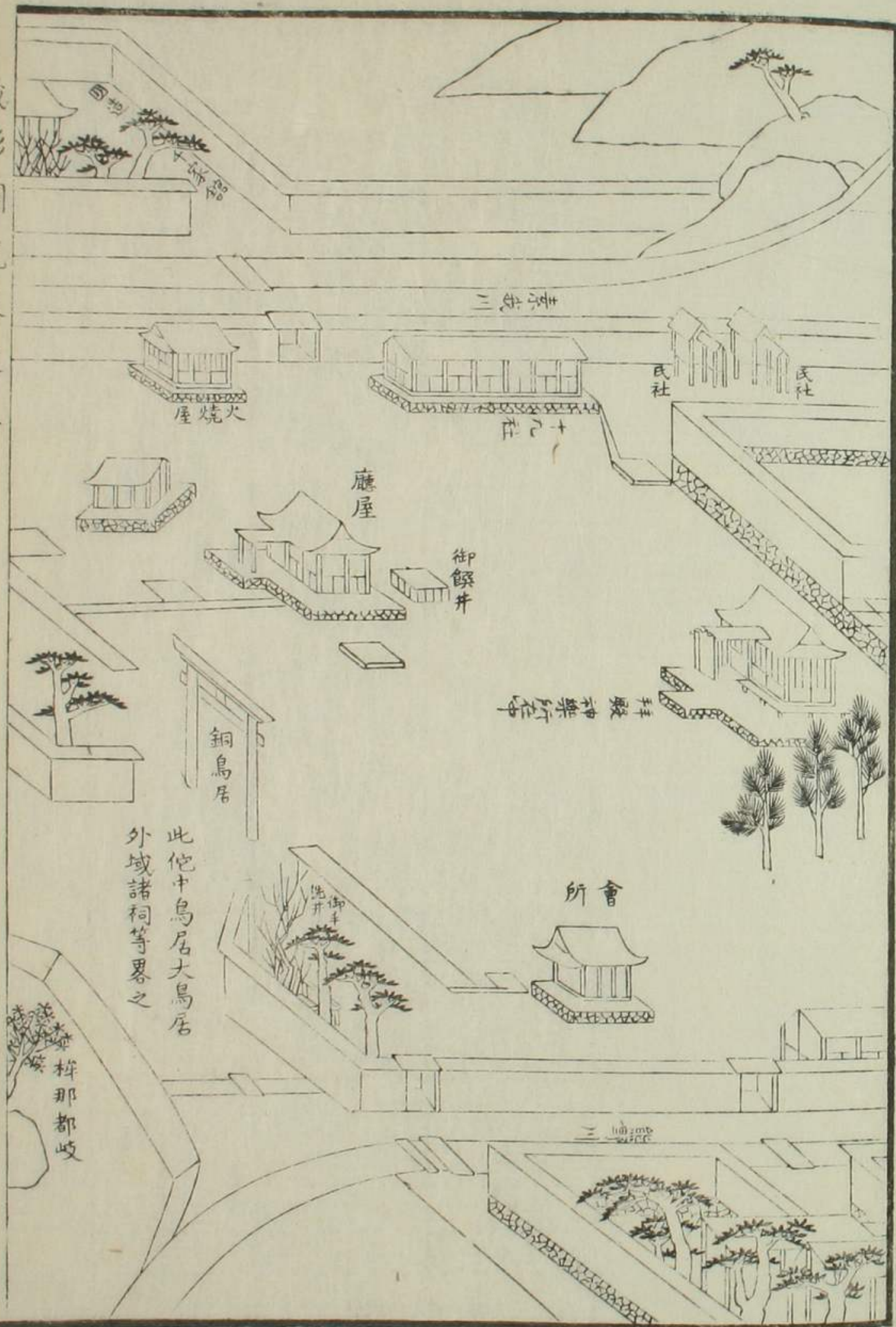
蕃名メイ

六月ハ水月也福因は名と引とぶせつふ也
者ふの内うい乃丹をたしてよ 異名伊須々久礼月
とをいよのぶるふ女の神人等之 松蔭子成わとつ
とああり子親あるはあひて帰るなりいゆくれ月
成ぬる空とて奉迎院大子○一は涼暮月風吹ハ池子
ありの川とちうはくく 風待月ハ松蔭子成わとつ
れ月の吹はくく 風待月ハ松蔭子成わとつ
とさよ 常夏月 待月 花の蓋と後鳥羽天皇 鳴神月
白雨ハ松蔭子成わとつ 松風月ハ今月よりハ松
よハありぬえや書くく定意

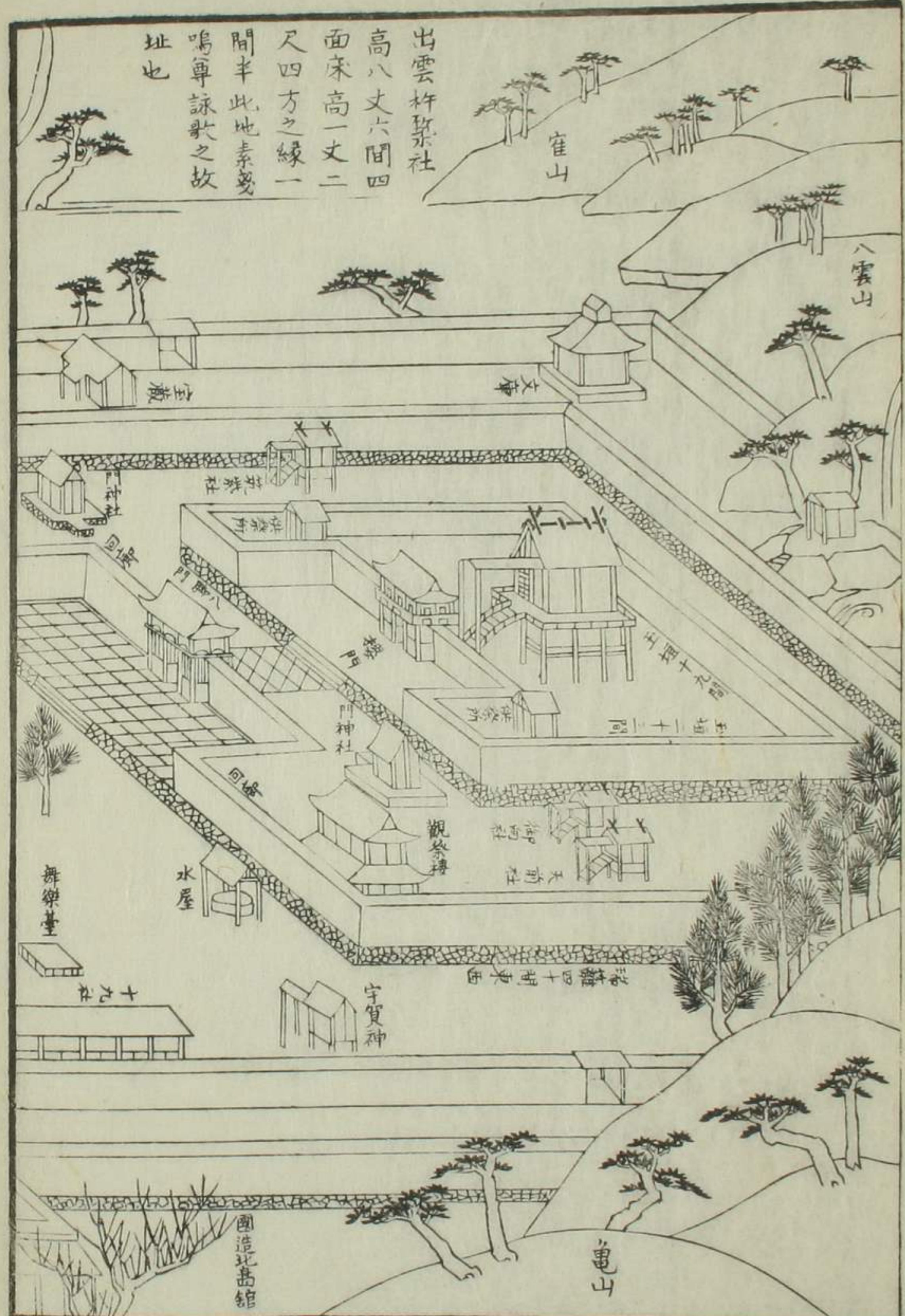
りせ月のめ
ぐれそあね

蕃名ユ一ニイ

七月ハ穂見月也此月福穂出見とつ
ん穈とあふささふ 異名米泥安比月
つさまふは自文 秋初月 風ふくは
いりまふは自文 秋初月 風ふくは
一かろくは海舟ハ今月ハ秋の月と名と名
出七夜月自は一の今月ハ秋の月と名と名
乃色にたらくて物名を呼し 文披月ハ秋の月と名と名
ふくもをみあつし月 文披月ハ秋の月と名と名
る希月自相機月 加さきぎのよるハ秋の月と名と名
○是月と親月とを稱ふは世に考祖の祭祀と次
よよまら又生御霊とつふとを親長日記文明八年七



此他中鳥居大鳥居
外域諸祠等畧之



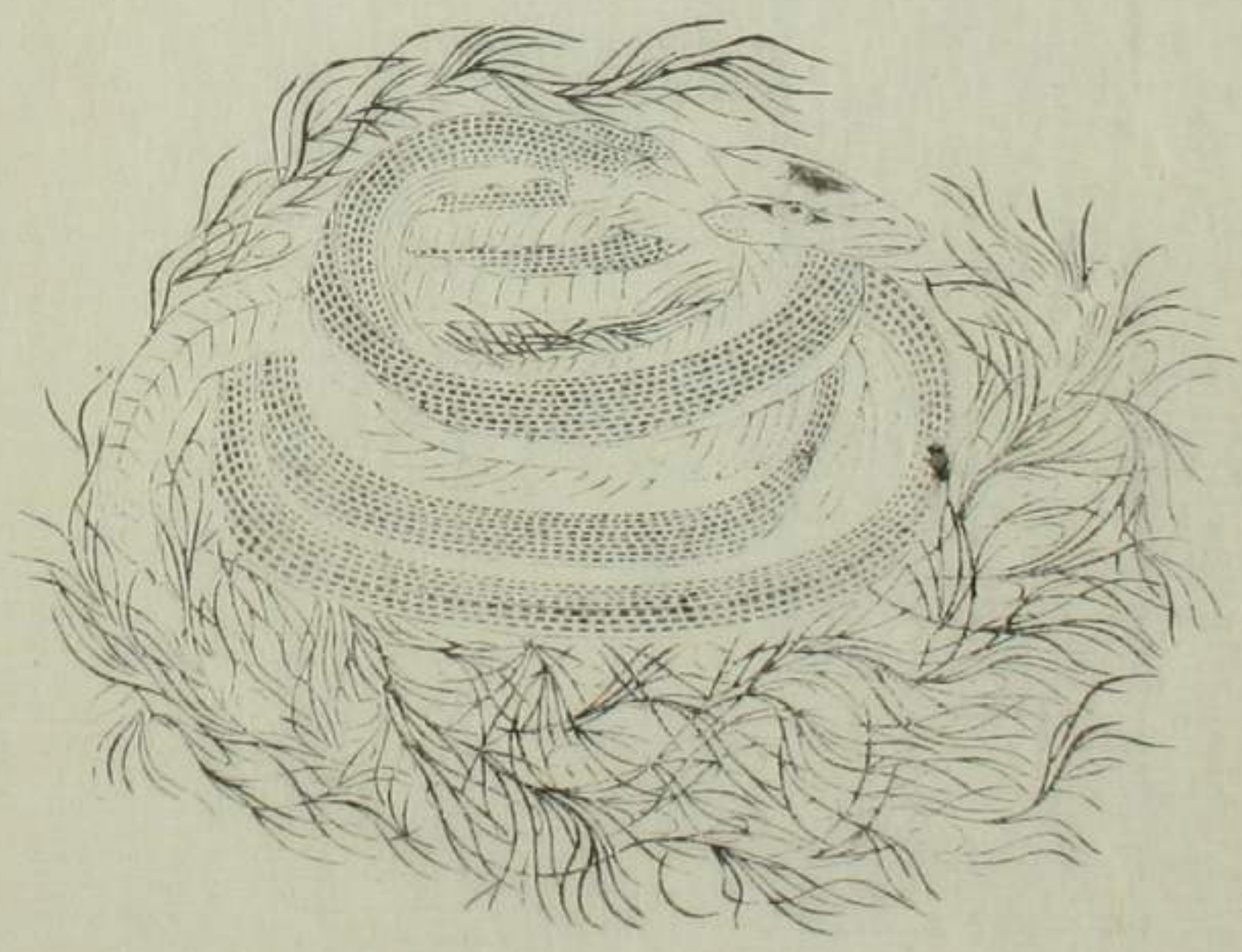
出雲杵築社
高八丈六間四
面床高一丈二
尺四方之縁一
間半此地素蒙
鳴尊詠歌之故
址也

團造比島館

電山

十五日迄の宵より其
 大一尺許金を以て
 し俗呼て龍地と稱へ
 例年卜定の神人預潔
 して海邊におてき遊
 末と流し玉原とて神
 子集げ龍地自ら生
 の上に幡止ると六角
 箱の納標繩と張て神
 子供ふ也此事扱子戴
 乃今小判にやて廢絶
 ありと云

此等ハ乾枯せる者ト云レ



蕃名ヲクトヨブル

十一月ハ霜春月也此月稲と擽と穀と上り納也いふ

ハ穀擽と春といつり一説は霜降月の暑ありと云

異名志毛古利乃波月と云ふは月の名

雪見月 暁つる雪のありきと云ふは月名

降月 風を以て降りし月此を降りや雪乃氣神樂月

宮居のかやうら月立神樂月 神來月のかきき月

雪待月 山風と雪待月といふは月名

蕃名ノハムブル

十二月ハ霜終月也此月田稲の事終る也

ありといふも農事終るるといふや倭成の歌に
福の山田も冬に成てとて言ひし世乃程は
これ夫年穀と納とと名に流とて言ひしその義觀るべ
し〇海となくとて名に流とて言ひしその義觀るべ
此處に 異名登志與通年月 かよねとと 又積月 いへきげつ
三冬月 ゆきふゆつき 春待月 はるまちげつ
月 つき 老 ふる 親子月 おんなごつき
月 つき 親子月 おんなごつき
今取此志毛月志波須乃兩月乃名ハ神樂歌に沖福春如
乃志毛川さ志はは乃かこれちといふもきりり河川
月〇古ハ春乃書と歳の終りに祖元を紀さるや故又
親月ハ名わか曾丹集玉なる年終終よ如まきり今日又

又ハ河らんといふん 和泉武部とてはの晦子
し錢傳者や徒然草志はは乃のつさりの根ハあき人の
かあきのの里徒然草志はは乃のつさりの根ハあき人の
ある歌とて鬼冬なるわざハこの頃京よりなす江東の方
子ハ程下りおとて河川とてわづらわづらなり

蕃名テセムブル

閏月ハ始仲哀紀より敏達紀より潤月と河るも潤餘乃
義多れハ也 蜻蛉日記 二年の所又歳毎ハ河るハ
清寧紀後月と河り又うらハ年と河るも潤子潤年
とらんハ克典以閏月定四時成歳〇穀梁傳云閏月者附
月之餘日也積分而成于月者也 史記秦宣公 天の運行三

百六十日と立て月も大小ありさるる六日と氣盈とし不
 足の六日と朔虚と此此過不及と合て十二月二年積て
 二十六日の餘りありとて三年に一閏と立て五歳と
 再閏十九年おして七閏に及べば餘分なし是と一章と
凡天周三百六十五度四分度の一と云ハ其一度數
 の事今日乃初昏より九度ハ昨日乃所よりハ少く西
 へおより次第の如くハ一度と立て何丈何天と云積
 ハ少し毎日の如くハ一日より一度づつハ一歳と三
 六十五日の上又一月と四分に割ると一何程より時
 初て足分する所は或るなり冬より夏まで夏より
 夏より夏まで夏より夏よりハ一月乃朔望程の種籾と
 して年月と記せ故に左の曆教多しと云山岬の
 者ハ岬本の業枯れて春秋と識し海島ハ潮汐大小にて
 朔望と察して差さる事也○天周と碾磴の左旋子磴ハ
 左旋の碾子蟻乃右行追却る如きと日月の右旋子磴ハ
 故に日月常に天行追却る如きと日月の右旋子磴ハ

がり言ぞ夫日月カして豈蟻虫の如く是わらん哉蓋天
 周乃日行より早く却て天日の火氣盛するに追れて運
 轉の速なる身彼蒼々たる特和蘭ハ餘日と一月づくに配
 ぶ若日火の煙氣強と云 日て閏と並ぶ又開國より已来何子何百歳と曆代を紀
 し年號改元等の事なし○或曰閏月何る歳ハ時候と三
 十月後不食ちりやると云ハ三十日長くと云てハ氣
候の差阿る目去日知お法さき秋田濕かきハ閏年ハ
 一候よりお以前極をべー又農家ハ本草の花開き葉謝
 と歡て前極の節と云は春の極をれと云ふく暖春
 此は花さくふと耐と云とら秋風吹されハ葉葉落し其
 葉の照燦より開蕙の逢速何とハ農事ハ節をゆづん

なく時子後まぬやうみふととちう庭ノリ野添ノリま前いろ
まは後いもぎとつとふと農家の第一は志保づきわさ
なる以上は田事と年月の名を係てついでして志を
特て耕作と為つふまは阿久根真替考曰いしへハ
て此のおのけくゆるふよみよそ曆ハ来穀みて一月ハ
ゆると取へ民ハ授きとと時ハみづくよくとるふ
とみて先去年ま祀おたきアラナ志保の花咲とえてハ苗代時大田
とより伝りおさし麦の種の阿久根と見てハ田植る
時と志保又その福の時カシとてまきく時と志るがご
とく年とまかくしきとゆばいりてま時この志るが

つ紀子ハ阿久根○凡田と植るの業と佐とらふれよそ
苗と佐苗とつと植レ之ク如ク佐サ少ト女メとらふとらふとらふとらふと
開ヒキつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
月と佐月とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
種タネとらふ麥とらふ麦の時とらふ麦の時とらふ麦の時とらふ麦の時
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
真田と佐奈太と訓るさおりつとつと又幸と佐久と訓め
るふとふ万葉といでつとつとつとつとつとつとつとつとつと
稱ていふとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
幸福の字古ハささきとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

○夫田地ハ春耕セ第一ト次是ト春田ト云々春は陽氣
 發散の時ゆ急耕スつ希テ土壤トよく膏コウヲ解テ地脈よ
 く通リ潤イロシハ起オコシ易ヨクキキリ國語號文公云農祥辰正日月底
 于天廟註農祥房星也立春之日晨中於午農事之候也凡
 春の耕を早起ト云冬月子春を後ト云或云早起
 ハ仲春ト云凡田土膏澤コウタクの氣は反サカシト云土ツチト云一
 つふふのち里之を冬月子反サカシト云冰霜コホリシモノ閉トラシキテ
 凍コウ凍コウあり又田土用ハ土を動ユルスル者多ク土角ツノノ動
 する土ハ功能コウノウス一田畦ツツト二月ニ月中ニ凍コウ作サシズレハ堅ツツカク次
 して各持モトあり、土の性秋冬ハ重オモシト云夏ハ輕カサシト云三

日ヒハ土と炭ツギと同一重オモシあり三月ニ迄ニハ炭ツギ重オモシト云土輕
 ト是ト炭ツギト云ト史記シキニ云々○秋分の時を
 天日テンニチ晝ヒル夜ヨルト云ト時トキ多オホク急イソク地氣チキ和ニホ暢トホ里サト土ツチと反サカシト云
 一是ト秋田ト云々春秋の時トキ是コトト就ツクテ田イハト耕ウハる地チの
 自然シゼント則スレバト云々田タ民ミンハ人の倡諭シヤウイン哉ヤ法ホウト及キル五穀
 ハおのノとト苗芽メダキテ四ヨ時トキの第ダイ序シト云々之ノ也是乃天日
 の運行次第ウツクシト生ナ成シスルト云々而春秋分の二時ト時正
 ト云ハ此時天日赤道の天中ト運ウツクハ行ユクルト云々四節シブツの
 内ウチありト寒暖サムイ和ニホ合アヒト農事ノウジ哉ヤト云々時トキありト唯
 農事ノウジのノれルト云々春秋分の節フシ何ナニト云々昼ヒル秋アキト作用ユウキョウト云々

出次魚一為事のまろりて成功の速く時を冬夏の暑
 寒のハおり根子子是を動作かまの也 俗謂彼岸ハ春秋分
 の後二日たり埃囊抄曰彼岸晝夜齊等如比兩岸左右均
 等故云到彼岸ハ佛書にあり其の圓ハ此種なきよ
 一紙平石録又云やせり或曰秋彼岸中ハ酒を造る三七
 日月ハ秋酒造まり僅ハ彼岸を過て寒の端ハ入て
 造る酒ハ十日と過ざれば出まづ一ハ寒暄の氣
 人間の體ハおほえどして海の成習かくのごとく
 や地より生ずるハ愈又冬至ハ天日赤道より南
 この分りたるを依るハ愈 凡一度よりハ地ハ一里三十
 子偏よりくと二十三度 六町ハ北ハ里七町十二間
 此の道を極傷の至と云此時大木の葉を種畢は終て又
 始るの乃と云るなり又夏至と云ハ天日赤道より北
 北より去るなりと亦二九三度と云極陽の至と云此時

早晚種と種早る始り終るの乃と云るなり此の二
 時ハ申道の長さはあざれども物極まはまると云復
 るゆ急傷の申を陽ハもや芽一陽の中を傷ハおの
 つらと云るなり故に田を耕し種は播まると常の時先
 當り不どけん意て時は深さややみと云る後種
 きのハ成実少く虫附おと何に 皇國ハ天日の運行し
 まろりてあて大凡畿内ハ北極星地と出たと三十五度
 東奥の極ハ四十度西南の邊ハ三十一度まてあて陰陽
 通正の土地ゆゑいづもの不也と五穀を出生と云る
 の上國より漢書通典及宋史明史などより倭國ハ土宜

五穀とつり五禮通考云自中土而南寒漸平其冬或如
 春秋焉而一歲兩夏者有矣赤道之下自中土而北寒愈甚其夏
 或如春秋焉而春秋已同乎中土之冬矣赤道北四十餘度
北極出地四十二度強南北京北極出地三十四度又北方の
大強故子南京の如き西地の中土とて德墨多國ハ天毎日雨あり西極の泥入多國ハ年中雨
 あり堪輿廣大ありて如くは偏熱偏寒等の地世にハ較
 多あるおとたり志くは戎人の陰陽通止の樂國を生
 るる五穀稔らむ衣服給ふ便を常に恨之歎くハ田
 疇の習より又着るハ是非あきおとたり凡使之は
 のハ上は天道生くる徳有り人間受取て地を播く培膏

として其化功と相違と記ハ物として淺くはたし
 の本とありハ常子農事と勸め樹藝と力とを
 とす或曰冥東ハ陽國にして寒甚し其ハ陰の
とて暖氣盡なれば陽の働が故あり是に因て暖國ハ即
切去るべき也便冥東ハ平原の地ありて地上冷りたる根
 地、下暖りたるより根切虫榮虫生じて作と害ハ何と
 とも地、上は沸て作と何と何とハ十年一度許と何
 とも統の虫あり何と何とハ毛と教と何と何と
 暑と甚なる登さよと用一とたり炎熱路程よく
 風立て西國のやとと想ぐ程よく
 年夏河西縣大雨雹皆如括捲大者或如斗殺畜生雉兔折
 也と浸かりはとの偏陰の寒天子衝昇て即あれと雨氷

ふれハ地物と云ふりてハ入るるハ物と云ふりてハ色
いで候と云一汲日水雨ハ山中の凝氷と夏月暴風とて
吹揚る不と 記勝之書云凡耕之本在于趨時和土務糞澤
早鋤獲春凍解地氣始通土一和解夏至天氣始暑陰氣始
盛土復解夏至後九十日晝夜分天地氣和以此時耕田一
而當五名曰膏澤皆得時功春地氣通可耕堅硬強地黑壚
土輒平摩其塊以生草草生復耕之天有小雨復耕和之勿
令有塊以待時所謂強土而弱之也春候地氣始通椽椽木
長尺二寸埋尺見其二寸立春後土塊散上沒椽陳根可拔
此時二十日以後和氣去即土剛以此時耕一而當四和氣
去耕四不當一杏始華榮輒耕望杏花落復耕耕輒蘭之土

甚輕者以牛羊踐之如此則土強此謂弱土而強之也春氣
未通則土歷適不保澤終歲不宜稼非糞不解慎無早耕須
草生至可種時有雨即種土相親苗獨生草穢爛皆成良田
此一耕而當五也不如此而早耕塊硬苗穢同孔出不可鋤
治及為敗田秋無雨而耕絕土氣土堅塔名曰脂田及盛冬
耕泄陰氣土枯燥名曰脯田脯田與脂田皆傷田二歲不起
稼則一歲休之凡愛田常以五月耕六月再耕七月勿耕謹
摩平以待種時五月耕一當三六月耕一當再若七月耕五
不當一冬雨雪止輒以蘭之掩地雪勿使從風飄去後雪復
蘭之則立春保澤凍虫死來年宜稼得時之和適地之宜田

雖薄惡収可畝十石○夏より秋の季とて東南の方より
 先物尺ゆりこころり之と福妻福是福文ふと噂り俗
 は福是多きや〜ハ福よく稔るあり故に福の夫とて妻
 とていふ侍へ里和名鈔並に福の名に係る事多し
 由り久しき〜なあり古今六帖に福妻はけらふ斗
 のり〜とふ秋乃田のまハ人志もよる〜又雷ハ怒祇小
 て又日水鳴とて云火神日奇祇の生不と書紀には見え
 たり日火の激なり雷の始て鳴発の時日氣地中徹
 里高し農耕と作と起きの時といひり易解卦雷雨作而
 百果草木皆甲拆阜應物が詩に微雨衆卉新一雷驚蟄始

田家幾日閑耕種從此起按子天日の火氣地下薄
塞り澄り水雲と突破中天の水雲動盪〜に火氣鬱
勢をり火と水と投或ハ火氣の激なり山川と動〜大塊と
ふるらるとん〜又大に塩燭と燄〜鳥泥と噂〜は下
富士益救の巔に登て雷とゆ〜履下り〜さ〜り
見之者大約似唯雞肉翅其響乃兩翅奮撲作聲也宋儒以
陰陽之理解釋雷電此誠可笑雷の雞も似〜り〜云ハ續
紀の中よりあり五雜組より早く〜あ〜とあり物部茂
卿に或者雷の金鯨と向〜は對曰吾弱年より病氣の疾
ありて腹中度々噂〜と〜め〜ぬ〜れ〜を〜我身の中な
と考れども今午六十二まで終りぬ〜れ〜を〜我身の中な
ぐ〜い〜ち〜る〜か〜ら〜り〜〜て〜噂〜や〜〜い〜我を汁い〜
〜地〜の〜神〜妙〜陰陽の不則ハ吾等決してあり〜
笑い〜と〜り〜や〜是〜ハ〜五雜組〜ま〜さ〜り〜〜る〜答〜あり〜先〜日〜火
の氣と〜い〜ふ〜て〜大鳴の〜下〜ま〜ち〜る〜者〜ハ〜恐〜怖〜る〜こ〜と〜理
ふ〜〜〜〜む〜り〜〜ゆ〜り〜雷〜鳴〜時〜ハ〜小〜兒〜ハ〜胸〜を〜隠〜せ〜と〜云〜ふ
とあり或曰是ハ俯ぶ〜て心氣を丹田に宿よとのを治

あり凡^レ雷^{カミ}震^{カミ}うつ時^{トキ}子^コ堅^ツさる未^ミハ立^タ所^{トコロ}子^コ裂^ヒ碑^{イサ}横^{ヨコ}子^コ謝^シと
傷^ヲる^ルの^ノか^カあり^リ秋^{アキ}の^ノ氣^キ候^{ウチ}も^モな^ナれ^レバ^バ天^{アメ}日^ヒ漸^シく^ク南^{ミナミ}志^シま^マの^ノ雷^{カミ}
鳴^ナと^ト稍^シ靜^{シズ}して^{シテ}激^ヒ奏^{ソウ}わ^ワく^ク唯^タ火^ヒ之^ノと^ト見^ミた^タと^ト阿^アり^リ美^ミ葉^{エフ}子^コ
霹^{カミ}靂^{トケ}の^ノ日^ヒ香^カ天^{テン}の^ノ九^ク月^{ゲツ}と^ト添^ソめ^メ不^フ是^ゼ也^ヤ一^{イチ}況^{ケイ}子^コ熱^{ネツ}閃^{セン}ハ^ハ山^{ヤマ}中^{ナカ}
の^ノ巖^{イハ}石^{イシ}より^{ヨリ}起^{ツキ}奈^{ナイ}頃^{キョウ}とい^イつ^ツり^リこの^ノ時^{トキ}か^カ子^コ福^{フク}種^{シュ}を^ヲ方^{カタ}小^コ登^{トビ}
熟^マと^トして^{シテ}其^ノ尤^{モト}物^{モノ}も^モ託^{ツク}て^テ名^ナ希^キと^トも^モ古^コ人^ニ其^ノ時^{トキ}と^ト命^{メイ}
て^テ子^コ年^{ネン}穀^{コク}の^ノ子^コか^カる^ルて^テい^イふ^フ一^{イチ}お^オ意^イと^ト想^{ソウ}ふ^フ至^シし^シ代^{ダイ}匠^{ジウ}記^キ
子^コ越^エ後^ゴ國^{クニ}も^モハ^ハ冬^{フユ}も^モよ^ヨの^ノつ^ツ子^コの^ノお^オと^ト神^{カミ}の^ノ時^{トキ}あり^リ特^{トク}に^ニ
雪^{ユキ}の^ノ始^{ハジ}て^テ降^ツむ^ムと^トい^イふ^フお^オび^ビく^クく^クく^ク呼^コぬ^ヌも^モく^ク又^{マタ}漸^シの^ノ
滿^ミ洞^{ドウ}の^ノか^カは^ハ重^{オモ}なり^リされ^レば^バい^イく^クん^ンして^{シテ}雷^{カミ}ハ^ハなる^ルと^トい^イは^ハる

き^キ電^{デン}光^{カウ}を^ヲい^イふ^フふ^フと^トい^イふ^フこ^コの^ノ人^{ヒト}間^マの^ノ知^チる^ルふ^フと^トふ^フ
阿^アら^ラま^マの^ノみ^ミを^ヲあ^アら^ラま^マと^トい^イふ^フは^ハい^イう^ウゆ^ユど^ド阿^アや^ヤも^モ疑^ギぬ^ヌよ^ヨ
く^クは^ハい^イり^リし^シる^ルと^ト河^カの^ノ川^{カハ}の^ノ海^{ウミ}も^モ入^イて^テ海^{ウミ}ハ^ハ溢^コむ^ム日^ヒ出^デて^テ月^{ツキ}
入^イる^ルも^モ止^トふ^フと^トい^イふ^フも^モ天^{アメ}地^チの^ノ神^{カミ}妙^{ミウ}わ^ワが^ガと^トい^イ
う^ウで^デり^リ又^{マタ}の^ノ知^チる^ルも^モさ^サと^ト其^ノ迹^キも^モい^イふ^フか^カく^クい^イへ^ヘる^ルの^ノと^ト

米^{コメ}占^{ウラ}書^{シヤ}紀^キ通^{ツウ}證^{テイ}古^コ語^ゴ拾^{シツ}遺^イ占^{ウラ}求^{モト}と^ト以^イて^テ始^{ハジ}と^ト後^{ノチ}後^{ノチ}新^{シン}奇^キは^ハは^ハる^ル
る^ル或^{アル}頭^{カウ}昭^{シウ}曰^{イフ}何^ニか^カの^ノ八^{ハチ}等^{トウ}の^ノ占^{ウラ}と^トい^イふ^フは^ハ子^シの^ノ後^{ノチ}も^モい^イふ^フ程^{ほど}を^ヲ知^チ
ふ^フは^ハ民^{タタ}間^マ除^ス夜^ヤ電^{デン}と^ト掃^スい^イ以^イ来^{ライ}年^{ネン}の^ノ吉^{キチ}凶^{キウ}と^ト占^{ウラ}ふ^フ此^ノ電^{デン}輪^{リン}
夕^ス占^{ウラ}萬^{マン}葉^{エフ}集^{シツ}又^{マタ}禰^ニ問^{モン}石^{シヤク}夕^ス食^{シヤク}拾^{シツ}芥^{カイ}鈔^{シウ}夕^ス食^{シヤク}と^ト向^{ムカ}歎^トふ^フ
占^{ウラ}ふ^フは^ハ又^{マタ}禰^ニ問^{モン}石^{シヤク}夕^ス食^{シヤク}と^ト向^{ムカ}歎^トふ^フの^ノ神^{カミ}は^ハい^イふ^フ

と同は道行人よ占正子すよ見女子の言子黄楊の柳と
枝女三人三街子向の向入り云云秋と三度満一堤と作
し来と云一掃嵩と作、あつて之度塚の内子ある人の答
よして言出と作、ううとあふ、あつて何と云、来占子返一葉葉
夜台向の各神よきく白
雲とあつてつみ是なり

占歳 世本云后益作占歳 呂氏春秋亦云尔師曠占五穀貴賤 賤事物紀原占歳十月朔日風從東來春賤逆此者貴

卜稼 禮記社之日位 米卜 番馬 雜編

蕃名ホールセクギンクハニレイケヲフシカアルセ、ヲ
ヲグスト

田奈ハ毎年正月望子米占管試つて占求として台奈又
ハ来年の農稼と決る事をして其乃達は亦亦奇とい
ふべし、ある子田家にてハ正月十五日と望年と稼て成日

よりハ大切な役い質て親子兄弟一不子會集嫁せし婦
まて親省がてつて来て而門戸と杜ご他客と辞し物忌
し、田神と祭り稲粟菽麦と始として一切の種子と大釜
よ入て粥と一節とほしつて竹筒若干と俵と竹筒毎子
粟穀の月識と或ハ刺と或ハ書し粥の中子投之と粟煮
六と教沸して後子竹筒と取上りて竹筒の内子各粟穀
の入と否と一盃と填寫と志うとけり、と或ハ某の稲満
ハ某の稲の青年あり某粟の満ハ某の粟の有年と志す
又中ありハ中年ありハ老年と志す、庶穀皆充実ハ五穀
の豊稔と志して後戸に各占とね訪い酒食と作して秋

歳に祝禱あり 俗語志曰河内國榎園の神社に田祭と云ハ御粥殿に大なる釜とくさ小釜と
煮て祠具と一五穀の禱終りて竹と五寸むりりに伐て
管となしたりと五十四年を述は五穀及色々の種も
五十匹入る多て釜の中一投一く釜とよりて粥管
の中に入らる少或ハ煮の加減をんて何乃種ハ十分
飯の種ハ八分多とれハ神主より高き山と
之上に神主なる道園の農民祭祭してその善惡と書付
きて神主は但て農事とあるやうにこれと枚園の御粥
とにも田祭とも云又曰強少者波那三穂の松原三穂
神に毎年正月十五日筒粥神あり大釜めて粥と煮
る竹筒五穀をふれ魁大根等種々の物と出付か也
子入るやを筒より由の一盃満ふも何の物と云
是此に俗作と不依とのと次○大如村杜ハ崇神紀
の羽振苑の地と云又正月朔申より亥日ハ辰菴
の祭あり成は當きり萩土民等一切の農具并五穀
の種子と混雜して一釜に煮り西登日乃行屠は糶
て神人の若くは空とく神人混雜の穀子一揃づと民
は授けたり民治る文脈より種子とてその年の若く
擇て當年は前おのむれば其地必歳実多ふと云はる日

次紀に記え、神名秘書に風神の祭に柏流とくあり
是亦歲時也
 其柏流に浮い流は六年に沈て流る四月七月何ふ
 とく尺えとる續古今集思ふ阿多と三角柏り向ふこと
 の沈は浮ハ流なりと詩小雅大人占之衆維魚矣實維
 豐年 註 埤雅俗云春魚遺子如粟埋泥中明年水及故岸則
成飛蝗故說者以為陰陽和
則魚多豐年夢魚埋或然也
 戒菴漫筆東入吳門十萬家
 家々爆穀卜年華就鍋拖下黃金粟轉手翻成白玉花紅粉
 佳人占喜事白頭老叟問生涯曉來粧飾諸兒女數片梅花
 挿髻斜この年華卜いハ上元の夜は次六とく歲時記
 よ尺えとる齊民要術年の豊凶と云ふと多し々の清人

八正月七日より十日まで天氣和清なればそ威を感ず
 るよし云四事物語に漢語鈔と引て久ししの夜ハせり
 こづきつむとて高き屋よのむせと兼置はくさ海よ着
 ふして好のそりの運みるよりや堀川面首ハくは
 のお母いりあまよせりこくと揃ふぐらよ年と紙或極
 月晦日登岡自我兩足間觀居地之氣知明年吉凶是云岡
 見又言ぬの氣と云くはと云續貫行曰正月元旦雨風
 なく曉の雲河のぐとわゆると云くちくく雲霧降日
 ちあびきて閑あるいぬ年がらのよろしき瑞とに接
 朴樹の新葉と身よ速速わりて芽の遅く出る方あり大

風を感とらふと云くはり百姓叢曰自然の運交涼理子
 進しする人位考あくはるぶと云くはりくちり志りれ
 どもて地冥神と朱風雨陰晴同き年の地てあさの理未
 子六十一子ハ庸庸子徳とらふと年の干支こそ圓
 朱と節氣まで合意とらふハあくは凡天氣ハ諸ホ東西
 南北同一あくはと云くは地よ在て山家の天氣ハ老農よ
 考ぐの浦溪のそ業ハ漁夫船長よ尋ねべし尤俗諺物白
 とも控るをくはん又ゆて考みよと云くは凡天氣と考て毎子戒
 よとめて試むべしと云くは凡天氣と考て毎子戒
 れハ功ヤ益よハあくはり考ての月ハ陰費

雨ハ必山子添ふとの有山の方より風おまはるかあす
る也常なる也。○蝗蟲の福田子害何々も既に神代紀に
昆蟲の災と記されしを始として古語拾遺にハ其驅除
よ以麻柄作靴以其葉掃之以天押草押之玄參あり以鳥
羽扇之以牛穴置溝口作男莖形以加之以薏子蜀椒吳桃
葉及鹽班置其畔と也今東北の邊土は男莖の形と踏傍
驅除の遺習ありて俗に弓削の道鏡又三代實録貞觀
十六年八月伊勢國言蝗蟲食稻其虫頭赤して丹のごと
く青く腹黒班ふして大ききのハ一寸五分小きもの
ハ一寸一日食して四五町をかり其過る所ハ遺穂未

一丹頂の稲虫ハ爾雅釋是月十三日玄蕃頭弘道王と伊
虫の蠶蟲なるべし
勢 大神宮に遣一幣と奉り蝗災と禳ふと禱る自後
蝗虫或蝶と化一或ハ蜂の爲に螫殺されて一時に盡く
滅ぶる何とむしハ禁庭の術して蝗と解し今も其た
めハ何と本藩の俗田に蝗つきうらうらハ必霧島廟に禱
祝て虫拂と祈ふ十と七八年災と免るべしと云蓋皇
孫尊始高千穂峯に降臨の時散米とありて雲霧の害と
拂ふハ一故実と掃きり義氏曰葦虫ハ苗立に立ち稠く
種とおろし苗瘦て生えりハ虫生せ候稀く蒔て大き
苗ハ必虫つきうらうら地流えの葉未だぬゆゑ未

里稲虫ハ田と深水あして株を付らると流ると又ハ各
ど使して深くぞり又蜘蛛の出穂と害ふ田ハ十月生向
の畦小藁を敷く焼る枯草を乳附魚と蜘蛛の子と拂
よよと翌年耘の細と法ハの急なり一年相州足柄郡は野
野のめき羽虫稲を付押並て穂と出らるる次第くは虫
をむくは何とともなふさやなく強ざあへり是を時おわ
ふ横鎮守ハ田の神稲鬼はおはし海をわたつて村長共と
共し虫除の祈と呪とたむしーのくともふ五文字と句の
上と並て多きそめじりの神の志らるる少々の魚の
事なるくろくしうばなきと云歌と残り書て竹を焚き田

毎に植秧タテよ入て明松とより立田の中へ植くは竹の本
より稲と分て縦横タテヨコより作り夫より川原より集り明松と
持てゆらぐり耕作の地の厚くハ篝のぶとく火と焼
くあぐりーと約しそ自あなり初秧の種とねあしそ
あぐりーこまを出て面々田毎にいどあだりたり明松
とより立く稲と分て田の中と十字字を画り志らるるや
とよて川原より舟を走らせ明松と一舟を焚て礼をうして舟
を舟田場より舟を焚火と揚ぐの舟舟と唱田神と舟
舟より火の光と返て虫あきし飛来篝火の本と燃て稲
虫をく焼く舟より舟雨降秋風冷やうと火の光と出志

く失てば、（？）と何と云ふに、（？）と揚明と立
 て、（？）の中と過あると云く、（？）と云く、（？）詩
 大田云去螟螣及其蟲賊無害我田穰田祖有神秉畀炎火
 註蟲蝗則非人力所及也故願田祖之神持此四蟲付之炎
 火之中也姚崇遣使捕蝗引此為證夜中設火火邊掘坑且
 焚且瘞蓋古之遺法如此是和漢同日の談と云ふ、（？）箕
 氏と之と取（？）もや今或鐘鼓して田畔と躍（？）也、（？）虫
 と拂と送（？）と云ふと日次紀（？）も入るなり或ハ芸臺諸種
 の油鯨の脂等と澆き之と保と云ふの法多し○今清人
 蝗蝻と驅除（？）其所の里長夜戌の時先北方（？）一向て拜

祭祈禱の法あり願藁とて長二尺餘の龍乃像と（？）
 成りて全解と流り淵へ（？）寸（？）の短香四束の中二束ハ
 頭（？）と腹（？）まで焚し二束ハ尾（？）と腹（？）の中まで焚し丸木
 二本とりて龍と撃（？）やう（？）し又白虎の二字紙本牌（？）
 書て逆（？）子田の四方（？）樹（？）四方の畔（？）より金鼓銅鑼と
 撃（？）らるる去と一時（？）に其（？）香（？）もや（？）き（？）は（？）柱（？）
 継（？）り（？）か（？）く（？）一（？）つ（？）他（？）の田（？）子（？）移（？）行（？）て一時（？）づ（？）亦（？）か（？）く（？）の
 ぶ（？）と（？）く（？）は（？）り（？）是（？）西（？）省（？）巡（？）捕（？）司（？）顔（？）家（？）選（？）る（？）の甲申の
 歲沖繩島（？）使（？）と（？）し（？）来（？）り（？）て（？）侍（？）授（？）せ（？）所（？）あり（？）と云
（？）の王（？）又
（？）槐（？）が（？）錢（？）穀（？）備（？）要（？）と（？）捕（？）蝗（？）の（？）按（？）子（？）越（？）語（？）稻（？）蟹（？）注（？）食（？）稻（？）蟹（？）と（？）云（？）



甲平江記事云吳中蟹危如蝗平田皆滿稻穀蕩盡又天工
 開物云陝洛之間憂蟲蝕者或以砒霜拌麥種以此等子て
 漢国風土の醜薄と知べし○或人のいひく風ありハ
 天地をさき清るの大徳ありとのあして昔を茶本と
 抜き源はどの風ありの時ハ非常俊傑と出来ぬ陽陰
 を分別せしむるやハ尋常の凡俗のち多かるといへ
 甲治亂の氣運ハ志ばらくおく登し累バとありと烈風
 荒水てふものゝおほぐまあはふ穀の實人間の種とど
 かいりけりおほるべき是もむりてハ天災の被る人カ
 のいりんととなしぐさまわばみ一何とバ 天武天皇

重勅して祠風神于龍田立野又祭大忌神於廣瀬河曲
ふこと威くまざるされ祝詞ハ天下乃公民乃作物乎
惡風荒水爾遇都々不成傷波おどろえ
令義解曰風神祭欲令冷
風不吹稼穡滋登大忌祭令山谷水變成
甘水浸潤苗稼得其全稔故有此祭也 嵯峨天皇弘仁
元年敕曰夏苗已成秋稼始熟恐風雨失時嘉穀被害宜遣
使畿内奉幣名神よし後紀子載きりり○依頼雜談鈔子
信濃國風神と云ふ風祝部の名所也信濃なる本曾治
の穡嘆みりり風の候もきりりりり信濃ふハ地勢
高く極て風疾きなり是の周く風間神社風間村等の
名所なりり袋冊子子源方明神の社ハ風の候といふ

のせまで深く養居候はあて百日の宵言を家こころふ
アきりりバ風靜めて農業乃るよ目出きり少のすき宵
とありて日乃走と尺せりまバ風流くあてりり俗事と
は尺えきり何ふてと風の暴ハ作物の成りりりり
結風乃祭と云ふあて此類は枚巻るるは蓋先王
敬畏の心と存して民と潤ふと傷りりりり惻怛の
候り上下小禱爾一幽冥の神功ヲ頼は天地和順五穀豊
衍豈啻頭露の政道あらんやとええりりりりりり
あるり 一條天皇ハ冬の夜ニ御衣を脱ておきりりり
と上東門院のあてかくハせき路路をりりりりりり

日本國の民さむくくく我ひよりあつたりたるを
ら、次と作らまはる事と後、東極、授政よみまはる事
は、今、皇、神、の、中、ま、さ、む、く、民、の、熱、
あ、く

今上皇帝の大御歌、つゝ、氣、か、さ、め、る、熱、ま、お、り、ま、ど、よ、
為、か、ん、ま、の、ひ、は、い、く、ま、い、づ、ま、と、衣、食、の、ふ、く、
人、子、切、ま、れ、バ、か、く、は、あ、ま、れ、ま、お、り、ま、ど、よ、
あ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、
炭、左、右、或、啟、曰、今、日、苦、寒、上、曰、天、下、民、困、是、寒、者、衆、矣、朕、何、
獨、温、愉、哉、と、異、域、同、日、の、談、と、い、ふ、事、也、
臣國柱謹按、世の仁君、仁人、政と

為、の、通、例、を、飽、暖、之、と、外、に、反、し、て、之、を、庶、民、に、求、む、昔、吾、
宰相、彦、征、韓、の、役、泗、川、新、寨、の、孤、壙、に、嬰、子、守、者、一、万、人、朝、
鮮、固、より、寒、地、夜、或、ハ、臣、庶、と、雜、居、て、火、と、塘、に、急、未、嘗、
て、憂、樂、と、共、に、せ、ど、ん、ハ、何、れ、時、に、加、着、清、心、の、卒、位、あ、
り、お、り、ま、ど、く、薩、軍、ハ、頗、主、役、の、礼、を、さ、ま、し、下、載、と、故、に、
中、て、忿、怒、と、し、て、卒、位、の、不、知、と、戒、て、曰、上、下、載、と、故、に、
望、を、是、夫、臣、財、と、合、さ、る、事、あり、と、歎、け、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、
明、將、董、一、元、十、万、兵、と、以、て、新、寨、と、攻、圍、ま、す、數、重、矣、子、慶、
長、三、年、十、月、朔、日、吾、侯、殺、出、し、て、大、子、明、兵、と、擊、破、り、一、斬、
ふ、し、て、斬、獲、四、万、級、と、得、り、遂、に、天、兵、般、師、の、行、と、啟、き、
永、く、日、固、の、威、校、と、失、け、抑、す、存、け、不、君、臣、一、辨、恩、義、
兼、行、す、の、故、に、何、れ、と、や、楠、中、將、曰、合、戰、の、勝、敗、未、だ、め、
と、兵、の、寡、寡、と、あ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、
の、と、抑、法、乱、珍、同、一、か、く、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、
る、と、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、
と、因、て、附、記、と、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、
或、老、農、の、い、い、く、耕、作、ハ、子、と、骨、つ、る、が、ど、ど、今、
ハ、乳、が、あ、り、り、乳、が、あ、り、り、ハ、何、つ、り、あ、ま、さ、ま、さ、ま、
ハ、何、つ、り、あ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、さ、ま、

一と寐てを瘧てと葉志^{ハツキ}を^{カク}人^ノと^{カク}りてハ貴とく
 是^{カウ}渴^{カウ}くんと^{カク}入^{カク}てハ^{カク}多^{カク}と^{カク}浸^{カク}き^{カク}根^{カク}莖^{カク}よ^{カク}と^{カク}ん^{カク}と^{カク}念^{カク}き^{カク}て
 ハ^{カク}多^{カク}と^{カク}耘^{カク}り^{カク}雨^{カク}風^{カク}の^{カク}積^{カク}り^{カク}は^{カク}て^{カク}之^{カク}と^{カク}培^{カク}ひ^{カク}之^{カク}と^{カク}枝^{カク}出^{カク}つ^{カク}り
 は^{カク}熟^{カク}宜^{カク}尙^{カク}添^{カク}て^{カク}取^{カク}施^{カク}し^{カク}晨^{カク}夕^{カク}は^{カク}耘^{カク}育^{カク}る^{カク}と^{カク}記^{カク}ハ^{カク}土^{カク}地^{カク}の^{カク}肥^{カク}磽^{カク}
 小^{カク}と^{カク}拍^{カク}去^{カク}苗^{カク}稼^{カク}の^{カク}不^{カク}熟^{カク}ハ^{カク}な^{カク}る^{カク}ふ^{カク}る^{カク}とい^{カク}つ^{カク}り^{カク}是^{カク}種^{カク}樹^{カク}家^{カク}
 の^{カク}常^{カク}播^{カク}り^{カク}い^{カク}つ^{カク}と^{カク}女^{カク}の^{カク}懶^{カク}惰^{カク}作^{カク}人^{カク}田^{カク}地^{カク}の^{カク}管^{カク}ハ^{カク}疎^{カク}小^{カク}して
 熟^{カク}と^{カク}と^{カク}れ^{カク}ハ^{カク}高^{カク}の^{カク}日^{カク}り^{カク}希^{カク}尙^{カク}登^{カク}の^{カク}利^{カク}と^{カク}り^{カク}て^{カク}活^{カク}り^{カク}ん^{カク}と^{カク}食^{カク}る^{カク}
 之^{カク}の^{カク}小^{カク}較^{カク}お^{カク}も^{カク}バ^{カク}殊^{カク}殊^{カク}小^{カク}して^{カク}農^{カク}圃^{カク}の^{カク}三^{カク}味^{カク}と^{カク}得^{カク}る^{カク}ふ^{カク}とい
 ふ^{カク}や^{カク}或^{カク}日^{カク}忽^{カク}風^{カク}ふ^{カク}と^{カク}吹^{カク}て^{カク}田^{カク}と^{カク}畑^{カク}と^{カク}穂^{カク}波^{カク}と^{カク}あ^{カク}て^{カク}仰^{カク}り^{カク}也
 寒^{カク}く^{カク}荒^{カク}き^{カク}る^{カク}ん^{カク}と^{カク}仰^{カク}り^{カク}ふ^{カク}と^{カク}仰^{カク}り^{カク}也^{カク}は^{カク}お^{カク}り^{カク}ハ^{カク}の^{カク}外^{カク}風^{カク}あ

一とぬ^{カク}る^{カク}は^{カク}風^{カク}よく^{カク}仰^{カク}り^{カク}き^{カク}深^{カク}也^{カク}と^{カク}は^{カク}荒^{カク}と^{カク}よ^{カク}う^{カク}て^{カク}吹^{カク}る^{カク}
 か^{カク}る^{カク}時^{カク}ハ^{カク}家^{カク}の^{カク}内^{カク}皆^{カク}あ^{カク}て^{カク}介^{カク}錯^{カク}さ^{カク}る^{カク}風^{カク}の^{カク}中^{カク}ら^{カク}き^{カク}深^{カク}
 と^{カク}て^{カク}そ^{カク}ま^{カク}り^{カク}持^{カク}重^{カク}バ^{カク}回^{カク}り^{カク}廻^{カク}て^{カク}ハ^{カク}風^{カク}の^{カク}つ^{カク}と^{カク}出^{カク}て^{カク}枝^{カク}葉^{カク}
 附^{カク}り^{カク}つ^{カク}り^{カク}され^{カク}バ^{カク}大^{カク}風^{カク}流^{カク}る^{カク}の^{カク}後^{カク}は^{カク}畑^{カク}と^{カク}の^{カク}ハ^{カク}根^{カク}と^{カク}露^{カク}の^{カク}
 稀^{カク}ハ^{カク}偃^{カク}る^{カク}穂^{カク}の^{カク}多^{カク}腐^{カク}と^{カク}ぬ^{カク}や^{カク}に^{カク}其^{カク}時^{カク}は^{カク}際^{カク}て^{カク}助^{カク}る^{カク}真^{カク}と^{カク}
 べ^{カク}と^{カク}地^{カク}も^{カク}昇^{カク}東^{カク}ふ^{カク}ハ^{カク}大^{カク}風^{カク}吹^{カク}て^{カク}仰^{カク}も^{カク}と^{カク}あ^{カク}る^{カク}と^{カク}あ^{カク}る^{カク}ハ^{カク}
 つ^{カク}と^{カク}稀^{カク}ま^{カク}る^{カク}也^{カク}○^{カク}し^{カク}く^{カク}と^{カク}民^{カク}と^{カク}使^{カク}ひ^{カク}工^{カク}と^{カク}興^{カク}と^{カク}ふ^{カク}ハ
 農^{カク}の^{カク}時^{カク}は^{カク}遣^{カク}る^{カク}寸^{カク}耕^{カク}の^{カク}多^{カク}共^{カク}と^{カク}と^{カク}緊^{カク}要^{カク}の^{カク}お^{カク}成^{カク}と^{カク}も^{カク}る^{カク}
 仁^{カク}德^{カク}紀^{カク}曰^{カク}不^{カク}可^{カク}以^{カク}私^{カク}事^{カク}之^{カク}故^{カク}止^{カク}耕^{カク}穡^{カク}之^{カク}時^{カク}也^{カク}持^{カク}統^{カク}紀^{カク}六^{カク}年^{カク}三^{カク}
 月^{カク}將^{カク}以^{カク}幸^{カク}伊^{カク}勢^{カク}中^{カク}納^{カク}言^{カク}三^{カク}輪^{カク}朝^{カク}臣^{カク}高^{カク}市^{カク}磨^{カク}敢^{カク}直^{カク}言^{カク}諫^{カク}爭^{カク}妨^{カク}於^{カク}

農時不聽於是高市曆脫其冠位擊上於朝重諫曰農作之
 節車駕未可以動矣天皇遂不從諫同年五月詔筑紫太宰
 率河内王等曰宜遣沙門大隅與阿多而傳佛教阿多ハ
摩國々按是本藩佛法流布の始なるを嗟乎帝女上ハ
 て己は高市曆農時と妨ぐるを直諫と聽納ま
 したる又胡教と毒敷し禍端と百世小豊り何代の女上
 の佛は淫し民を傷むはあはれなるん然るも同七年
 詔令天下勸殖桑紵梨栗蕪菁等草木以助五穀又大赦天
 下鰥寡孤獨篤瘡貧不能自存者賜稻蠲服調役あふ六と
 あり此帝をかゝりて能過と悔復善政と修あるもの

あり史記は肅侯游大陵出於鹿門大戊午扣馬曰耕事方
 急一日不作百日不食侯下車と肅侯馬と扣あるの諫と
 嘉納は拓周発は吳あるを中野家集は神いちて極し
 まするはゆり家田と流るは知るて物よきん是復轉
 鹿狩とるるもの時帝と考へど農稼の害とみるべし
 ざりし城戒示してよめふやしり漢武帝嘗入南山
 下射獵馳驚禾稼之地民皆号呼罵詈といふに似るし
 ありき

成形圖說卷之三終

